

## 論文の内容の要旨

論文提出者氏名	安 出 卓 司
論文審査担当者	主 査 樋口 京一 副 査 天野 直二 ・角谷 眞澄
<p>論 文 題 目</p> <p>Long-term trial of corticosteroid therapy for the recurrence of cerebral amyloid angiopathy-related hemorrhages: a case study using [11C] BF-227 amyloid-PET</p> <p>(脳アミロイドアンギオパチー関連再発性脳出血に対する長期副腎皮質ステロイド治療の試み：[11C] BF-227 アミロイド PET を用いた症例検討)</p>	
<p>(論文の内容の要旨)</p> <p><b>【目的】</b> 脳アミロイドアンギオパチー関連再発性脳出血の予防に対する副腎皮質ステロイド治療の長期効果を明らかにすることを目的とした。</p> <p><b>【題目・方法】</b> 対象は脳アミロイドアンギオパチーのボストン診断基準において、G3 から G4 と診断された男性 1 名と女性 2 名の 3 症例である。脳の A<math>\beta</math> アミロイド沈着を評価するために BF227 アミロイド PET を用いて検査し、全 3 例の脳にアミロイドの沈着を認めた。G3 と診断された 66 歳の男性例 (症例 1) では、プレドニゾロン (PSL) 50 mg/日が開始され、6 か月間で漸減中止としたが、その 6 か月後には脳出血が再発した。このため、同様なステロイド治療が再開された。G3 と診断された 69 歳の女性例 (症例 2) では、脳出血再発時にデキサメサゾン (DEX) 16 mg/日で開始し、一週間後には PSL30 mg/日へ変更、その後漸減して 8 mg/日で維持された。G4 と診断された 75 歳の女性例 (症例 3) では、PSL30 mg/日で開始され、その後漸減し PSL8 mg/日で維持された。</p> <p>観察期間内では、臨床像および MRI の T2* 画像での微小出血面積を画像解析で評価した。2 つの症例ではステロイド治療の前後で、BF227 アミロイド PET によって後頭葉における SUV (standardized uptake value) の評価を行った。</p> <p><b>【結果】</b> 症例 1 では副腎皮質ステロイド治療の開始 20 ヶ月後に左前頭葉に小再出血を発症し、ステロイドパルス療法を施行した。その後 33 か月間は再出血を認めていない。アミロイド PET での SUV は 14 ヶ月月間で 2.0 から 2.2 へ増加し、微小出血面積も 27 ヶ月間で 410.2 mm<sup>2</sup> から 445.5 mm<sup>2</sup> へ増加していた。症例 2 では副腎皮質ステロイド治療の開始 29 ヶ月後に多発性の小再出血を発症し、ステロイド投与量が一時的に増量された。その後の 17 ヶ月間は再出血を認めていない。アミロイド PET での SUV は 18 ヶ月間で 1.5 から 1.4 へ減少したが、微小出血面積は 27 ヶ月間で 512.5 mm<sup>2</sup> から 560.8 mm<sup>2</sup> へ増加していた。症例 3 では副腎皮質ステロイド治療を開始して 22 ヶ月間再出血を認めておらず、微小出血面積は 13 ヶ月間で 152.5 mm<sup>2</sup> から 154.1 mm<sup>2</sup> へ微増していた。</p> <p><b>【考察】</b> 脳アミロイドアンギオパチー関連再発性脳出血に対する副腎皮質ステロイド治療の長期効果は、臨床的には有効である印象だが、検査データから有効であるとの結論を導き出すことはできなかった。本邦で開発された BF227PET は脳アミロイドアンギオパチー関連のアミロイド沈着の可視化に有用であった。</p>	